

社会福祉学部

<平成 31 年 推薦・(一般・専門総合・震災特別選抜)>

小論文

出題意図：文章の読解力を前提として、その内容を簡潔にまとめる構成力，そして作者の意図を的確に理解できる分析力，さらには，自らの意見を適切に提起できる記述力を問うことを出題意図としている。

<問 1>

採点基準

- ① 小学校から高校までの教育に対する作者の考えを記述できている
- ② 卒業後の実社会で出会う問題の特徴を記述できている
- ③①と②の内容のギャップに対して「怖い」と作者が考えていることを記述できている
- ④字数制限が守られている
- ⑤誤字や脱字のない文章になっている

解答例

作者は、小学校から高校までの、問題には必ず答えがあり、正解が一つであるとする教育を受けることによって、問題にはどんな場合にも正解があると思込み、さらには、正解を考えることの筋道そのものさえも画一化されてしまうことへの危惧を抱いている。なぜならば、学校を卒業して飛び込む実社会は、正解のある問題というのは、実は何ひとつなく、誰かに尋ねれば正解を与えてくれるという問題はないし、また単に正解を求めるという作業だけでは解決できないことばかりである。そのような定石通りではない社会と、問題には答えがあつて、正解は一つであるとする小学校から高校までの与えられる教育内容とのギャップに対して、作者は「怖い」と感じている。(305字)

<問 2>

採点基準

- ①必要な能力と、それが何故必要なのか、を記述できている
- ②必要な能力を身につけるための取り組みを記述できている
- ③①と②の関連が適切に記述できている。
- ④字数制限が守られている
- ⑤誤字や脱字のない文章になっている